

# 南越農林だより

## 合同会社 池田ファーマーズの紹介



合同会社「池田ファーマーズ」（代表上山正勝氏）は町内の認定農業者（8個人、2法人）により本年2月に池田町で設立されました。

「自立心を持った経営者が、協同してパートナーシップを発揮する」ことを目的に、機械の共同利用や作業分担、受託農地の調整による効率的な団地化をすすめることとしています。現在は町特別栽培米「生命に優しい米づくり」の堆肥散布作業やソバの生産に取り組み、今後は水稻生産等も含め中山間地域の担い手として活動していきたいとのことです。

## 🍅 山田剛士さん(鯖江市)のハウスで、ミディトマトの食べ放題 🍅

7月1日、旬菜.com青年部による交流イベント「旬菜.com味の展示会」が鯖江市で開かれました。暑い日となりましたが、親子連れなど約70人が訪れ、自分でもいだトマトをほおぼっていました。格安で持ち帰りができるということもあり、中には4kgものミディトマトを持ち帰る人も見られました。

また、鯖江市特産のマルセイユメロン「さばえ夢てまり」や、鯖江市内の吉田浩紀さんが栽培しているアスパラガスの試食も行われ、参加者からは「おいしい」「どこで売っているの」といった声が上がっていました。旬菜.com青年部では、今後も店舗での対面販売など、消費者交流を積極的に行っていく予定です。

旬菜.comの「味の展示会」などイベントについての情報は、旬菜.comのウェブサイト <http://syunsaidotcom.net/index.html>より、「耳より情報」をご覧ください。



鯖江特産のメロン「さばえ夢てまり」も試食



真っ赤なミディトマトがたくさんとれました

### 南越農林総合事務所

越前市上太田町41-5 TEL(0778)23-4545

URL <http://info.pref.fukui.jp/nourin/sougou/nanetsu/>

E-mail [nan-noso@pref.fukui.lg.jp](mailto:nan-noso@pref.fukui.lg.jp)



健康長寿な福井です。

平成19年9月14日

No.23

## 池田杉の産直スタート!

～「池田杉で家づくり」産直ネットワーク～

「池田杉で家づくり」産直ネットワークの第1回内覧会が7月31日に開催されました。当日は、会員9名と関係者が集まり、下池田活性化グループの現地案内のもと、伐採場所、伐採立木が紹介され、買い手となる会員は自分たちが求める木を真剣に選木されていました。

当地の杉は、長期にわたり丁寧に手入れ（森林整備）されているため、節が少なく建築資材として最適の木に育っています。また立地条件がよいことから他の杉に比べ、内面の色が白く、見た目も大変美しいものでした。

会では、今回のようなイベントを通じて、多くの方に池田杉の良さを伝えながら、1軒でも多くの「池田杉で家づくり」に繋がりたいと考えています。



『内覧会の状況』

## 「メモリアルベンチ」を設置したい方募集!!

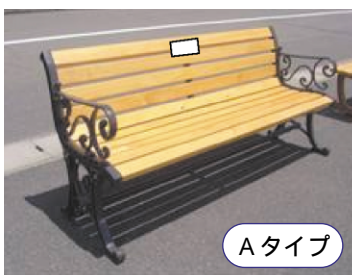
県では、“木材の良さ”を広くPRするため、“木を使う”運動の一環として、県産材を使用したベンチに対する出資者を募集しています。

県産材を使用した「メモリアルベンチ」には、出資者の名称・企業名や、簡単なメッセージが書かれたプレートを添付して、県や市町の公園等に設置していきます。このベンチおよび設置に要する経費の半分は、県が支援しております。

個人や企業、団体等どなたでも出資者の対象になれますので、結婚記念や創立 年記念等あなたの大切な思い出をベンチに込めて、メモリアルベンチを設置してみませんか!

お問合せおよび申し込み先は、南越農林総合事務所 林業部まで! TEL(0778)23-4533

### 導入ベンチタイプ



Aタイプ

出資額 10万8千円  
(ベンチ価格 21万6千円)



Bタイプ

出資額 8万3千円  
(ベンチ価格 16万6千円)



Cタイプ

出資額 5万8千円  
(ベンチ価格 11万6千円)

「健康長寿ふくい」の自然を知り、伝えよう

# 第60回 全国植樹祭

平成21年春開催

式典会場：一乗谷朝倉氏遺跡

植樹会場：福井市脇三ヶ町、朝谷町



## 正しい表示で、お客さんとの信頼関係確保と地産地消のPRを

販売される食品（農産物、米、加工品）には、JAS法で正しい食品表示が義務づけられています（JAS法＝農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律）。

農業者が直売する場合も、正しい表示を行う必要があります。

そこで、去る7月11日に、「直売所における農産物の販売に関する研修会」をサンドームにおいて開催しました。

表示は、農産物、豆類、米、加工品とそれぞれに表示内容や表示方法が異なります。

研修会で配布しました農産物販売に関する手引書を参考にして、正しい表示をお願いします。また、個人で直売される方など、別途手引書が必要な方は、南越農林総合事務所農業経営支援部までお問合せ下さい。

今回は、米の表示について紹介します。袋に入れるなど、包装して販売される場合は、必ず下記のとおり表示してください（うるち米、もち米の他、赤米、黒米、紫米などの古代米なども表示が必要です）。



研修会での講義風景

**包装した米穀（玄米、精米）**は、袋（または容器）ごとに下記の様式で表示しなければなりません。

名 称	精米			
原料玄米	産地	品種	産年	使用割合
	福井県	コシヒカリ	18年産	100%
内容量	5kg			
精米(調製)年月日	平成19年9月1日			
販売者	南越 太郎			
	福井県	市 町	-	
	TEL.077	-	-	

名称：玄米、（うるち）精米、もち精米、胚芽精米の中から該当するもの  
原料玄米：農産物検査法に基づく検査を受けていないと、産地、品種、産年は、書くことができない

検査を受けていない米は、「未検査米 国内産 100%」などと表示します。

青字は記入例

内容量：キログラム（kg）、グラム（g）

精米(調製)年月日：原料玄米を精白(調製)した年月日、調製年月日は、通常は初摺り・選別をした日

販売者：氏名（会社名）、住所および電話番号を書く

## 鳥獣害ワンポイント対策 ～秋から冬にかけての鳥獣害対策～

### 電気柵の点検

電気柵は正しく設置、点検されていれば非常に効果のあるものです。

草が触れて漏電していないか、電線の高さは地面から20cmと40cmになっているか、地面との隙間が広がっていないか今一度点検を行いましょう。地面との隙間が20cmを超えると子イノシシに簡単に侵入され、それを追って親イノシシが進入します。

これから収穫されるソバや水稲については、被害の出ないようにこまめに電気柵の点検を行いましょう。

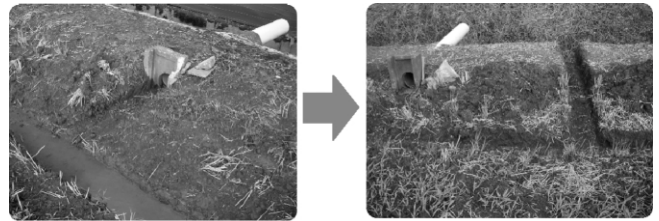
### 餌付けをやめる

収穫の終わった水田のヒコバエは、イノシシを増やす餌となります。できるだけ早期に秋おこしを行いましょう。また、収穫しない野菜や果樹、生ごみなども放置することで、集落への餌付けになりますので注意しましょう。

# 大麦栽培について

## 1 排水対策の徹底

大麦の良し悪しは、播種までの排水対策でほぼ決まります。排水対策がうまくできれば細かく碎土ができ、播種もうまくいき除草剤の効果も高くなります。



排水樹が溝より高い場合は、畦畔を切り排水する

## 2 土づくり資材でpHの矯正

大麦に適したpHの6～6.5にする必要があります。以下の土づくり資材を施用します。

麦番頭 60～80kg/10a または マグエース 100kg/10a

## 3 良い条件での播種

播種は収量と品質の面から、10月10日～20日の晴れた日に行います。播種量は、条播の場合6kg/10a（播種時期に応じて加減する）。

## 4 除草剤散布

雑草が繁茂すると肥料のほとんどが雑草にとられてしまい、収量が減ります。雑草にあわせた除草剤を散布します。

# 水田の土づくりをしましょう

近年土づくりをしない水田土壌の酸性化、地力低下、リンやケイ酸の減少などが進んでいます。

毎年土づくりを実施し、生産性を高めましょう。



## 土づくりの実践内容

### 1 稲わらは必ず鋤きこむ

稲わら鋤きこみは、堆肥1tの施用に匹敵。

稲わらを焼却すると、地力の消耗につながります。また、耕うんの際の碎土性が低下します。

### 2 土壤改良資材を散布する

耕うん前に、アルカリ資材を最低100kg/10a散布。

近年の土壌の酸性化は、大麦、大豆の生育に大きく影響しています。このまま酸性化が進むと、水稲への影響も懸念されます。

### 3 鋤きこみは、稲刈り後、できるだけ早急に！

鋤きこみを早く実施し、わらの分解を早めましょう。

刈り株から稲が再生すると、いのしし等のえさとなり、次年度の獣害発生にもつながります。

# 「田んぼの生き物調査（日野川用水地区）」実施される

～水に親しみながら、環境保全の大切さを学ぶ～

7月23日、越前市大屋町の親水公園と周辺の農業用水路で、地区内の保育園児や保護者、土地改良区などの関係者約130人が参加して、農業用水に親しみながら環境を守る大切さを学ぶ「田んぼの生き物調査」が実施されました。

これは平成19年度よりスタートした「農地・水・環境保全向上対策」の実践活動の一環として松ヶ鼻資源保全協議会と西北陸調査管理事務所などが越前市の北日野保育園幼稚園と共同で実施したもので、保護者や関係機関からも多数参加し、大変賑やかな研修会になりました。

園児らは近くの用水路に入り、引率者の指導を受けながら網で沢山の魚をつかまえ大喜び。採取した生き物の名前を教えてもらい多様な生き物に驚くと共に地域の環境について再発見し、環境保全の大切さを学んでいました。



生き物調査の説明を聞く



水中生物をつかまえる

## 中山間地域総合整備事業 河和田地区 着工

鯖江市河和田地区は平成16年の福井豪雨で、甚大な被害を受けました。

この災害を契機として基盤整備事業に対する機運が高まり、冠水防止のための水田嵩上げや通水能力拡大のための用排水路整備等を実施し、地域住民が安心して暮らすことのできる農村づくりを目指すこととなりました。

本年度から事業に順次着手し、河和田地域の活性化と災害に強い地域づくりを推進するとともに、おしどりや蛭の住む豊かな自然環境の保全と、越前漆器の里として歴史を誇る文化の継承等地域の特性を活かした農村の総合的な整備を実施していきます。

主な事業の内容

ほ場整備 4団地 A=37.8ha、ため池 4箇所

農業用排水施設整備 13路線 L=5,610m、農業集落排水整備 1路線 L=200m



河和田に飛来するオシドリ

## 地産地消マッチング商談会を開催しました ～地元生産者と地元実需者とのマッチング～

8月9日（木）、地元産食材を扱う意欲の高い加工業者等のみなさんと、食材提供を希望する農業者とのマッチング商談会を開催しました。

今回で2回目となるこの商談会では、鯖江市の山田剛土さんのブルーベリー、越前市の白山スイカ、池田町の後藤宝さんの山羊ヨーグルト・チーズを商材としました。

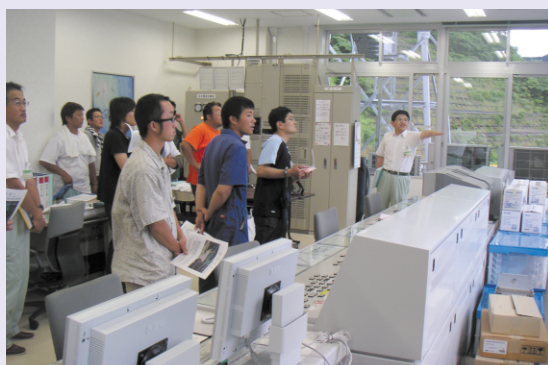
また、この分野では県内で先駆者的存在であり、全国的にも知名度の高い、サバエ・シティーホテルの近藤正明総支配人より商品開発・販売に関する活動について具体的なアドバイスをいただきました。

来年度もこのような商談会を開催しますので、商談会への参加を希望される方は、ご連絡ください（担当：農業経営支援部 池上）。



マッチング商談会の様子

## 青年農業者の交流の輪が広がっています！



榎谷ダムで説明を聞く青年農業者の皆さん

7月4日、管内の青年農業者や研修生16名が参加し現地研修会を開催しました。

当日は鯖江市や越前市の青年農業者が実施しているプロジェクトを現地で検討した後、南越前町の榎谷ダムを見学しました。

互いの経営や技術の話題がはずみ、たいへん賑やかな研修会となりました。

農業経営支援部では今後とも青年農業者の支援や仲間づくりを進めていきますので、就農を希望される方はいつでもご相談ください。

## 『あまくておいし～い』『もっと食べたい』

～生ゴミ堆肥を使って栽培したタマネギの収穫祭と学校給食(地産地消)～

家庭から出る生ゴミの堆肥化に取り組んでいる越前市大虫町で6月13日、タマネギの収穫祭が開催されました。収穫祭では「エコ大虫生ゴミリサイクルの会」（谷口孝会長）、「エコ大虫有機の里」（奥山利雄代表）および大虫幼稚園の園児が、タマネギを一玉ずつ引き抜いて収穫し交流を深めました。地元の人によるタマネギ料理を試食した園児らは、「あまくておいし～い」「もっと食べたい」と喜んでいました。

タマネギを栽培された「エコ大虫有機の里」のみなさんは、草むしりやタマネギの収穫風景出荷作業など非常に苦労されたそうですが、「収穫祭で地元のかわいい子ども達と交流できて元気がわいてきた、来年も大変だけど特裁の認証を取ってがんばる」とおっしゃっていました。

大虫のタマネギは収穫祭の後から今秋まで南越管内の小中学校や保育園の給食の材料として、旬菜.comを通して出荷されます。



タマネギの収穫風景